

……私の読む本は、たいてい、父が買ってくれた。その頃のもので『万葉集物語』（森岡美子著）というのは今でも本棚にある。これは、私が万葉集というもの、いいかえれば日本の古典にしがみつく、きつかけの本であった。

小学校五年、六年、中学時代と何度でも繰り返して読み、これを土台にしてさまざまの万葉研究所にとりついた。当時の私は、ものすごい万葉信者で、その熱病が一応、冷たいはずの今でも、そのころに勉強したことが、しばしば役に立つし、京都、奈良へひかれる理由も案外、このへんにあるのかもしれない。

高校に進学して、偶然、歴史の先生が『万葉集物語』の著者である森岡先生だったときの感激は今でも忘れない。……

（平岩弓枝著 中央文庫『旅路の旅』“私の愛読書”より一部抜粋）